

個性「4」

遺伝子が個性を決める？

？
じっくり考えてみよう

自分の容姿や才能、性格、人生は、いったい何によってつくられるのだろう。

親から受け継いだ遺伝子によって？ 環境によって？

それとも、自分の心の持ちかたや行動・努力によって？

下の線上で、あなたが思う度合いのところに○印を入れてみよう。



A 親からの遺伝子や
生まれた環境・
育てられる環境によって
ほとんどがつけられる



Aと**B**の50:50くらいの
組み合わせ
によってつけられる



B 自分の心の持ちかたや
行動・努力によって
ほとんどがつけられる



わたしたちはみな、知らないうちに生まれてきます。そして何歳かになると、自分というものを意識するようになります。そして、「ああ自分はこのような家庭で育っているんだな」「このような性格なんだな」「このような顔や体で、このような才能を持っているんだな」と気がつきます。そしてさらに大きくなると、他人と比較して、優越感を持ったり、劣等感を持ったりするようになります。

好きであれ、嫌いであれ、自分の容姿や才能、性格は受け入れるしかありません。そこで考えたいのは、容姿や才能、性格がいたい何によって決まるかということです。

さて、〈じっと考えてみよう〉で、あなたはどこに○印をつけたでしょう……。

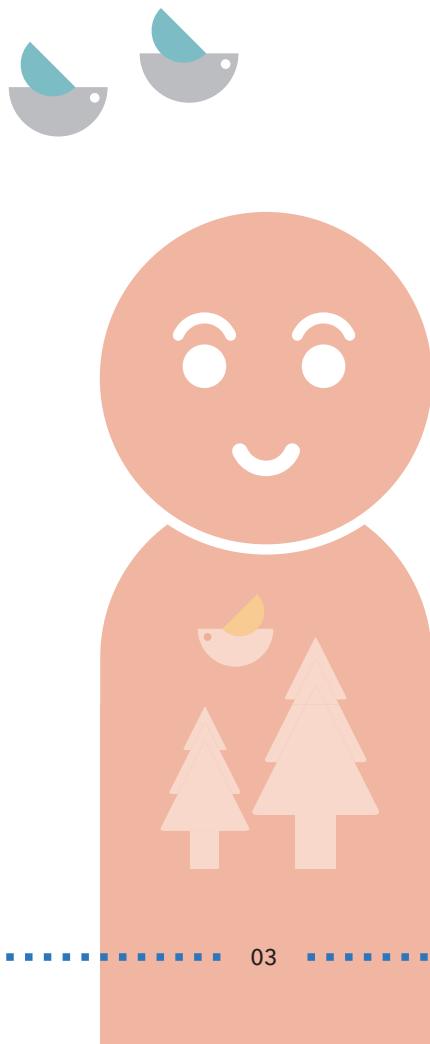
「A…親からの遺伝子や生まれた家の環境によってほとんどがつけられる」に近いほう、つまり数値の1や2につけた人は、自分の個性は先天的な要因や環境的な要因に大きく影響を受けると感じた人です。

逆に「B…自分の心の持ちかたや行動・努力によってほとんどがつくられる」の側、つまり4や5のところにつけた人は、自分の個性は後天的、意志的な要因が大きく影響すると感じた人です。数値の3につけた人はその中間の感じ方です。



もちろん、この問いに正解はありません。感じ方は人それぞれで
すし、実際、この両方の力が自分に作用しています。ただ、Aの
側は「運命や環境によって自分につくられる」という受動的な意
識の表れだといえます。逆にBの側は「自分は自分の意志によっ
て変えることができる」という能動的な意識の表れといえます。

さて、もう少し長い時間のなかで考えてみましょう。人類はこれ
までずっと村や社会をつくってきました。そこではたいい身分
制度があつて、人は生まれた環境に強く縛られていました。日本
でも江戸時代（つい150年くらい前）まで、農家に生まれれば一
生農民をし、商家に生まれれば一生商売をやっていました。



いくら音楽や絵の才能があつても武士をやらなければならなかつ
た人がいたり、技術が不得意であつても職人やることを強いら
れたりする人がいました。そのように、身分という運命が人の才
能を無視し、生きるルールを決めていた時代がありました。むし
ろそうした時代のほうが、人類史上、圧倒的に長いのです。

その点、現代のわたしたちは身分から解放され自由です。なりた
いものになっていい時代に生きています。これは過去の人びとが
苦勞して勝ち取ってくれたことです。〈じつと考えてみよう〉の回
答においてBのほうの意識を持てることは、じつは幸せなことで、
現代の特権といえるのです。

次のような古い言葉があります——

「心が変われば、行動が変わる。

行動が変われば、習慣が変わる。

習慣が変われば、人格が変わる。

人格が変われば、運命が変わる」。

また、化粧品の世界的ブランド『シャネル』を創業したココ・シャネルはこう言いました——

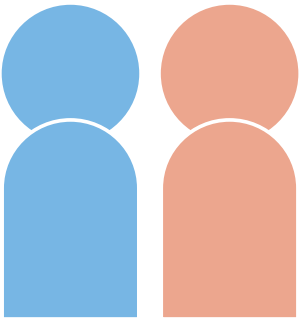
「20歳の顔は自然の贈り物。50歳の顔はあなたの功績」。

つまり20歳までの顔だち、顔のつやというものは、親の遺伝子や若さといった影響を直接的に受けるものです。しかし、それ以降は、自分自身の考え方や生き方が顔をつくっていくという考えです。

「しよせん、個性や人生なんて遺伝子や生まれ育った環境で決まるものさ」と考えることは簡単でラクなことです。しかし、そうした姿勢によって、自分を元気づかせることができるでしょうか。たぶん、元氣の出ない自分をつくりあげてしまうでしょう。

ところが一方、「自分の個性といい、人生といい、最終的には自分の意志と努力でつくりあげるものなんだ」と決意することは、しんどいけど元氣がわいてきます。

さて、あなたは「ラクだけど元氣の出ない考え方」を選びますか、それとも、「しんどいけど元氣が出る考え方」を選びますか？





14歳から
大人まで

生きることの根っこを考える

ふだんの[🍏]哲学

Philosophy for Everyday Living

『ふだんの哲学』は、中学生から大人まで読んでいただける思索のための小話集です。

学問的な哲学ではなく、ふだんのできごとのなかからふかく考える種を見つけ、

ふだんに（不断に＝絶え間なく）心を健やかにしていく内容をめざしています。

ほかにもシリーズ記事がプロジェクトサイトにありますので、是非のぞいてみてください。

※本記事は営利を目的としない教育用途であれば、個人や学校・各種グループにおいてご自由にお使いください。

「ふだんの哲学」ウェブサイト

<http://careerscape.lekumo.biz/tetsugaku/>

村山 昇（info@careerportrait.jp）

サカイシヤスシ（info@lantadesign.com）